国立 富山大学

問合せ先　医薬系学務課
〒930-0194　富山市杉谷 2630
☎(076)434-7138　http://www.med.u-toyama.ac.jp/

教育目標＆特色

薬業の長い伝統を有する富山で、昭和 50 年 10 月に医学部、薬学部、和漢薬研究所、大学附属病院からなる医療系大学として設立され、医学と薬学の有機的な連携のもとに東西医学の統合の理念を揚げ、地域医療に貢献し世界的にも活躍する人材の育成に努めてきた。日々進歩する医学の知識、技術を身につけ、医師・医学者として豊かな人間性を備えた医療の実践および医学の発展に取り組むことのできる人材を養成することを目的としている。和漢医薬学入門を開講し、伝統的な東洋医学に現代医学の成果を織り込んだ授業を受けることができるのが大きな特色である。薬学部や和漢医薬学総合研究所が併設されていることから、これらと共同する学際的な研究が可能であり、バイオテクノロジー、医薬品・和漢薬の開発面での研究が活発に行われている。和漢医薬学総合研究所は近年著しく発展した先端科学技術を駆使することにより、この伝統医学や使われる薬物を科学的に評価し、東洋医学と西洋医学の融合をはかり、新しい医薬学体系の構築と自然環境の保全を含めた全人医療の確立に貢献することを使命としている。

カリキュラムの特色

１年次は五福キャンパスで教養教育科目を学び、幅広く深い教養を積むとともに、医学を学ぶ準備教育も行う。２年次から杉谷キャンパスで専門教育を履修するが、１年次の医療学入門や２年次の和漢医薬学入門では、薬学部の学生も含めて各学科の学生が一緒に学べるよう工夫しており、８学部の総合大学の特長を生かした共通教育も始まった。医学科の専門教育では、臨床前教育として、臨床の各科に基礎医学の先生も加わり教員がチームを組んで統合的に各臓器・疾患の教育を行っている。解剖学、再生医学、生理学、生化学が基礎医学系として、また病理学、感染予防医学、免疫学、ウイルス学、薬理学、放射線基礎医学が臨床との橋渡しの役目をする臨床基礎医学系としてそれぞれ講座が設けられており、臨床講座としては内科学３講座、皮膚科学、小児科学、神経精神医学、放射線診断・治療学、外科学２講座、脳神経外科学、整形外科・運動器病学、産科婦人科学、眼科学、耳鼻咽喉科頭頸部外科、腎泌尿器科学、麻酔科学、歯科口腔外科学、臨床分子病態検査学、和漢診療学、危機管理医学、臨床腫瘍学の 21 講座が教育を担当している。各科の講義とともに５年次から臨床実習が附属病院で行われるほか、教育関連病院である県立中央病院での臨床実習も行われ、第一線病院での診療の実際を経験させている。臨床医学では臓器別に臨床と基礎の教官が相互に協力して統合的な教育を行うシステムを採用。和漢診療学コース、生命科学コース、あるいは国際医療教育や海外臨床研修コースなど富山大特有の選択コースも設けられている。

大学ＤＡＴＡ

◆**沿革**　昭和 50 年に富山医科薬科大学を設置し、平成 17 年に富山大学に移行した。
◆学部所在地　＊杉谷キャンパス(専門教育)＝問合せ先に同じ。アクセス ＪＲ富山駅南口バス乗り場③から富山大学附属病院線バスで約 30 分、富山大学附属病院下車。
＊五福キャンパス(教養教育)＝〒930-8555　富山市五福 3190 番地　アクセス ＪＲ富山駅南口から市内電車で約 15 分、大学前下車、徒歩５分。または南口バス乗り場③から富山大学前経由のバスで富山大学前下車。
◆学部学科・定員　医学部＝医学科 110 名(うち２年次編入学定員５名)
◆大学院　医学薬学教育部＝生命・臨床医学専攻 18 名、東西統合医学専攻７名
◆おもな付属施設　附属病院、和漢医薬学総合研究所、生命科学先端研究センターなど。
◆**学寮**　新樹寮・定員 308 名(男子 205 名・女子 103 名)。他学部と共用。

参考資料

●**医師国家試験合格率**

区分	全　体				新　卒				既　卒			
	志願者	受験者	合格者	合格率	志願者	受験者	合格者	合格率	志願者	受験者	合格者	合格率
2017	130	124	115	92.7%	120	115	110	95.7%	10	9	5	55.6%
2016	118	114	104	91.2%	107	103	98	95.1%	11	11	6	54.5%
2015	125	122	111	91.0%	111	108	100	92.6%	14	14	11	78.6%

●学校納付金(2018 年度)

区　分	入学手続時	初年度総額	２年次以降
入学金	282,000 円	282,000 円	-
授業料	267,900 円	535,800 円	535,800 円
合　計	549,900 円	817,800 円	535,800 円
６年間総計	3,496.800 円		

＊ほかに諸会費が必要になる。

●奨学金制度

日本学生支援機構奨学金のほかに、地方公共団体や民間奨学団体の奨学金制度がある。

2018 年度入試要項

募集人員

区分	一般前期	一般後期	推薦	ＡＯ	帰国生徒	編入学
医学科	60	20	25	-	若干	5

＊推薦入試の内訳は地域枠 15 名以内、富山県特別枠 10 名以内。

試験日程

試験区分		出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
一般入試	前期日程	1月 22 日～1月 31 日	2月 25 日･26 日	3月8日	3月 15 日
	後期日程		3月 12 日･13 日	3月 21 日	3月 27 日
推薦入試		12 月7日～12 月 13 日	12 月 23 日	2月5日	2月 14 日

一般入試

＊センター試験の配点欄は前期／後期を示す。

試験区分		教科	科目(→は選択科目数)	配点	時間
センター試験（前期・後期）		国　語	国。	200/200	80
		地歴・公民	世Ｂ、日Ｂ、地理Ｂ、倫政経→１。	100/100	60
		数　学	数Ⅰ・数Ａ、数Ⅱ・数Ｂの計２。	200/200	各 60
		理　科	物、化、生→２。	200/350	各 60
		外国語	英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓→１。	200/350	80
個別試験	前期日程	数　学	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数Ａ・数Ｂ(列べ)。	200	120
		理　科	物基・物、化基・化、生基・生→２。	300	180
		外国語	コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ。	200	90
		面　接	個人面接。	100	-
	後期日程	小論文	英文を含む。	350	120
		面　接	個人面接。		-

＊面接は思考力、協調性、積極性、将来性を評価する。

推薦入試

①**推薦条件**＝地域枠は富山県内の高校で、富山県内の地域医療に貢献したいという強い意志とそれを支える資質を有する現役。１高校から６名以内。特別枠(自己推薦)は富山県内の高校で、富山県内の地域医療に貢献したいという強い意志を有し、医師免許取得後は一定期間富山県内で診療に従事することを確約できる現役・１浪・２浪。②選考方法＝書類審査・センター試験(５教科７科目)の成績のほか、地域枠は小論文・面接、特別枠は課題作文・面接を課す。いずれもセンター試験の成績が配点の 80%(720 点)以上の者を合格者の対象とする。<センター試験>　◇国語＝国。◇地歴・公民＝世Ｂ、日Ｂ、地理Ｂ、倫政経から１科目選択。◇数学＝数Ⅰ・数Ａ、数Ⅱ・数Ｂの計２科目。◇理科＝物、化、生から２科目選択。◇外国語＝英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から１科目選択。

帰国子女入試

書類審査・学力検査(英語)・小論文・面接によって選考する。

２年次編入学

大学を卒業した者(見込みを含む)で、２年以内に TOEFL-PBT、TOEFL-iBT、TOEIC のいずれかを受験している者。書類審査(TOEFLTOEIC のスコアを含む)・筆記試験(課題作文・総合試験)の合格者(募集人員の約４倍)に２次試験として口頭発表・面接を課す。

＊合否判定　一般入試センター試験・個別試験の総合点で判定する。ただし、１教科でも０点があれば不合格とする。同点者がある場合は個別の合計点の高い者を上位とし、さらに同点の場合は成績順位を同じとする。
＊二段階選抜　一般入試は前期約５倍、後期約 15 倍で実施する。
＊試験場　一般・推薦＝本学杉谷キャンパス(Ｒ富山駅南口バス乗り場③から富山大学附属病院線バスで約 30 分、富山大学附属病院下車)。

＊受験料　一般 17,000 円、推薦 17,000 円

入試のポイント

一般入試の募集人員配分は前期60名・後期20名。センター試験は５教科７科目、個別試験は前期が数学・理科・外国語の３教科＋面接、後期は小論文・面接。３教科とも過去問を研究しておくことが重要になる。数学は問題の理解力、論理的な思考力及び計算力、これらを伴った表現力を総合的に評価、物理は高校で学ぶ物理に関する基礎的な問題を出題し、物理の基本概念の理解度、応用力、論理的思考力を評価、化学は入学後の学習において支障が生じないだけの基礎学力が身についているかに留意しながら、知識のみならず、理解力、化学的思考力をも含めて評価、生物は高校までに学ぶ生物学に関して、幅広い基礎的知識と論理的思考力をみる。また、英語はある程度の長さの英文を正確に理解する力や、まとまった内容を基本的な英語で的確に表現する力をみる。過去問題や出題意図はホームページに公開されているが、今春の数学は３題の問題の組み合わせにより、受験生の基礎的学力・論理的思考能力・計算能力・表現能力を総合的に評価することを意図して出題した。小論文は医療に関する英文を含む資料を基に論理的な思考力と表現力、将来の医療人としての倫理観、責任感の有無、内的規範性を評価。出題には英文が含まれるので、英語の読解力をつけておきたい。配点ウエートは、前期・後期ともセ試にやや重点があるから教科書の徹底理解を心がけたい。

2017 年度入試DATA

●入学者選抜実施状況

＊２段階選抜は第１段階不合格者数を示す。

区分	募集人員	志願者	2段階選抜	受験者	当初合格	追加合格	合格者	競争率	入学辞退	入学者
前期日程	60	314	0	275	60	0	60	4.6	0	60
後期日程	20	437	92	91	23	3	26	3.5	4	22
推薦(地域)	15	30	-	30	12	0	12	2.5	0	12
推薦(特別)	10	165	-	160	10	0	10	16.0	0	10
帰国子女	若干	2	-	2	1	0	1	2.0	0	1

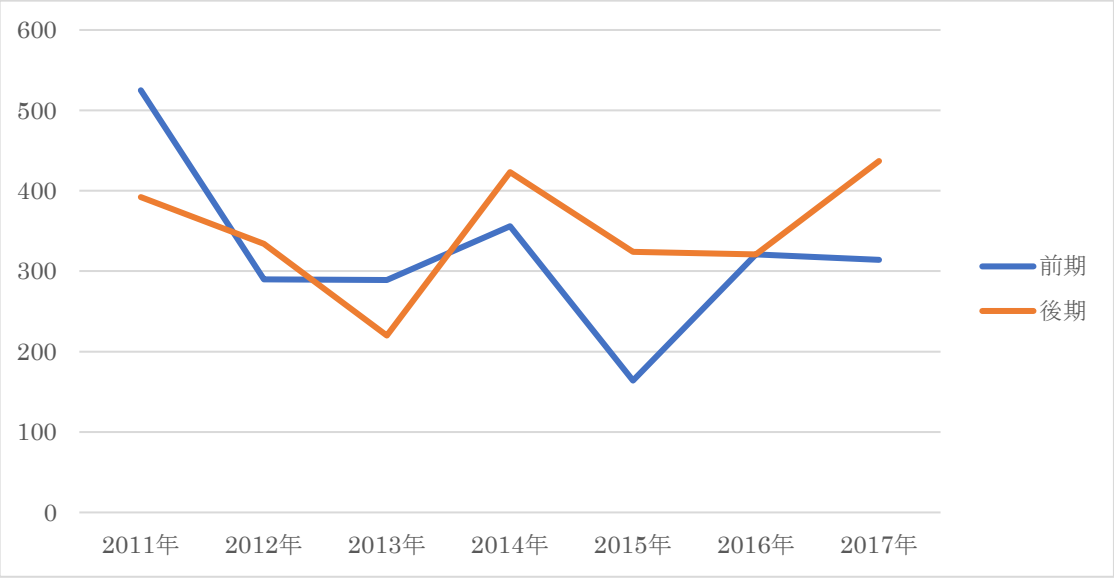
【合格者の成績】

カッコ内は 2016 年度。

区分		配点	最高点	最低点	平均点
前期	セ試	900(900)	835.6(824.6)	724.4(715.4)	782.8(769.7)
	個別	800(800)	684.4(639.2)	496.9(468.4)	565.1(538.4)
	総合	1700(1700)	1461.0(1463.8)	1295.5(1256.1)	1347.9(1308.1)
後期	セ試	1200(1200)	1137.6(1128.8)	1058.4(1403.2)	1092.1(1080.4)
	個別	350(350)	255.8(264.2)	196.0(191.8)	228.2(225.8)
	総合	1550(1550)	1359.5(1355.1)	1299.1(1276.0)	1320.3(1306.3)

＊入学者の現浪別内訳　現役 25 人、浪人 80 人。
＊入学者の男女別内訳　男子 78 人、女子 27 人。
＊入学者の出身地別内訳　富山 35 人、その他 70 人。

【志願者数の推移】



●小論文の内容

一般入試(後期)・推薦入試で課す。今春の後期は、[1]世界保健機構の「健康の社会的決定要因に関する委員会」の最終報告書の要旨が提示され、「わが国では人口に占める高齢者の比率の上昇が社会問題となっています。この報告書の立場から、どのような対策が考えられるか、300 字以内で述べなさい」など３問に論述。[2]我が国の人口問題について書かれた文章が提示され、「今後の我が国における医療現場のあり方について、男女共同参画の観点から 150 字以内で論じなさい」など３問に論述させた。

●面接の内容

一般入試(前期・後期)・推薦入試で実施する。前期・後期は受験票送付時に送付される「自己紹介書」に必要事項を記入の上、当日持参する。集合時間等については前日に指示される。受験生４～５人のグループ面接とグループ討論で、思考力、協調性、積極性、将来性を評価する。